



長期投資仲間通信「インベストライフ」

I-OWA マンスリー・セミナー講演より

PE(プライベートエクイティ)投資、日本と経済と私

講演: 川本 明氏

レポーター: 赤堀 薫里

川本 明氏

アスパラントグループ シニアパートナー。慶應義塾大学経済学部特任教授。フューチャー株式会社取締役。東京大学法学部卒、通商産業省入省。英オックスフォード大学修士号取得。OECD 事務局、通商調査室長(通商白書 2000)、内閣参事官、経済産業政策局、企業再生支援機構専務執行役員などを経て現職。

経済産業省で30年間勤務した私の官僚論のポイントとしては、日本には伝統的官僚像というものがあるということです。ある意味「官僚たちの夏」モデルがあり、日本が戦後経済から成長していく過程で、頼りない政治家に対して、「官僚こそがまさに国家プランナーとして日本を率いていくのだ」という気骨のある考え方でやってきました。しかし、それは古いモデルになってきている気がします。プロとして専門的な知見を高めて、政治をある意味、国民の声を体現している最終的な責任者となるのは政治家です。政治家をプロとしてどうアドバイスし、サポートしていくのか、そこが官僚の現代的な役割でないのか。そこに徹していくべきではないのかというのが、今なお、私が持っている問題意識です。残念ながら民主党政権への政権交代から自民党、公明党への復帰と政治が大きく変動しました。霞が関の官僚の姿勢というもの、民主党政権ができる前までは、現代的官僚像に向かって動いたのが、その後、曖昧になり、伝統的な官僚像とのせめぎあいになっています。

2012年に長年の友人と、私が最後にいた日本航空を支援した官民ファンドの企業再生支援機構の仲間とアスパラントグループというプライベートエクイティファンド運営会社を設立しました。一言でファンドと言ってもいろいろな投資対象があります。大きく分けて誰でも購入でき、アクセスできる透明な仕組みとしては上場株式の取引があります。取引所があり、価格が常に開示され分析もなされている。





長期投資仲間通信「インベストラيف」

その中にも投資スタイルは様々あります。短期的にトレードするタイプ、アクティビストとしてかなりのシェアを投資して経営陣に対して意見をやるタイプ、バフェットさんのように優良企業に投資をして長期にわたり保有して毎年上がってくるであろう収益からリターンを得るバリュー投資のタイプなどいくつかもあります。私たちのプライベートエクイティは、パブリックではなくプライベートなエクイティ、つまり非上場な会社に投資をします。時にはバイアウトファンドとも呼ばれています。

投資対象は売り上げが50億円～数100億円位の中堅の企業です。大きなファンドであれば、もっと大きな規模の企業が投資対象になります。これは2兆円規模ですがRJRナビスコはバイアウトファンドが世の中で有名になった一例です。上場を廃止してファンドが全株を買い取り、大きな上場会社そのものをプライベートにしてしまった。

また、パナソニックが持っていたヘルスケアの事業部門をKKRというファンドが買い取りました。上場企業のある事業部門をプライベートにしてしまう。つまり、ファンドがその事業部門の経営を行うわけです。

ベンチャーキャピタルもプライベートエクイティに含まれます。プライベートエクイティは非常に専門的な分野です。ベンチャーキャピタルは、企業としてまだ収益を上げている段階ではない企業に投資をする。技術やビジネスモデルが上手く行くだらうというところに投資をするので手法も投資対象も異なっていますが、プライベートエクイティの同じカテゴリーに入ります。

講演前半では、レーガン大統領とトランプさんを比較しながら類似点と相違点の解説、また、今後のトランプ政権への憂いをお話いただきました。後半では、アスパラントグループの概要をご紹介いただきました。

そして最後に、「PEのファンドが経済の中で役割を拡大していくことが、日本経済にとって重要である。一つは年金などの資産運用のポートフォリオの一部として投資することも検討すべきだと思う。非上場の会社の業績をよくすることで上がる投資収益も年金資産のリターンの一つになる。また、日本は他の国と比較してPEファンドの存在感が小さいけれど、逆に潜在的な投資機会があるとも言える。そして今、事業承継は非常に社会的にも大きな課題となっている。日本経済の中でもそのような課題に向けてお金や人を動かしていく重要なツールになっているのではないかと結ばれました。